



名古屋都市センター
Nagoya Urban Institute

News Letter

ニュースレター

2026.07 vol.133



栄の町並みと「ザ・ランドマーク名古屋栄」

特集◎ 変わり続ける栄のいま ～ザ・ランドマーク名古屋栄、SRTで変わる都心～

調査研究

令和7年度研究成果報告会を開催しました！

まちづくり支援

活動成果報告会を開催しました！

まちづくり来ぶらり

八事・山本球場

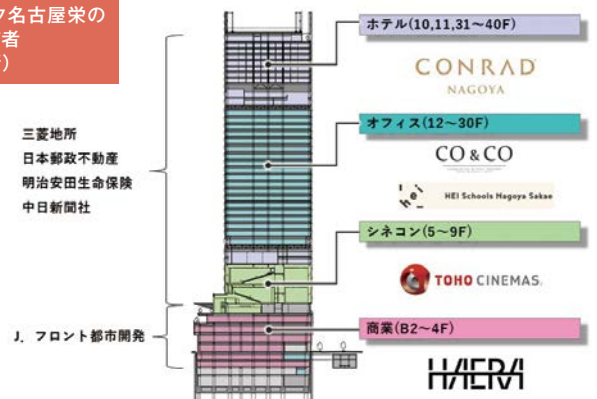
変わり続ける栄のいま ～ザ・ランドマーク名古屋栄、SRTで変わる都心～

ザ・ランドマーク
名古屋栄の外観



久屋大通南側から見た、ザ・ランドマーク名古屋栄、中部電力MIRAI TOWER、中日ビル(左から)

ザ・ランドマーク名古屋栄の
用途概要と所有者
(提供:三菱地所)



城下町から近代都市へ

名古屋の中心地として、栄はいつも時代の顔でした。商人が行き交う城下町、戦災復興で生まれた100m道路にテレビ塔、老舗百貨店と地下街の繁栄。どの時代も、栄は名古屋の活気そのものでした。多くの市民がその変化を見守り、ともに歩んできた場所でもあります。

しかし近年、人々の暮らし方や過ごし方などライフスタイルが変わりました。都心の賑わいをどう守り、育てていくか。それが栄の新しい、そして切実な課題になっていました。

そのような中、名古屋市は2013年、「栄地区グランドビジョン」を策定しました。リニア中央新幹線の開業を見据えながら、「最高の時間と居心地を提供する」まちをつくる。そのための道

筋を市民や関係者と共に描いてきました。以来、エリアマネジメントによる歩道空間の活用や Park-PFI による大胆な公園再生など、栄はひとつひとつ、確かに変わってきました。

そして2026年、そのビジョンを体現する施設が栄に新たに加われました。

栄に誕生した 「文化・交流価値創造拠点」

2026年6月11日、「ザ・ランドマーク名古屋栄」の商業・シネコンエリアが開業しました。

高さ約211m、地上41階。三菱地所をはじめとする5社が、名古屋市の市有地活用事業として手がけたこの複合超高層ビルは、「世界と人とまちをつむぐ、未来の名古屋をリードするランドマーク」をコンセプトに掲げています。

一棟に集まる機能は多彩です。東

海エリア初進出となる「コンラッド・ホテルズ&リゾーツ」、栄エリア初のシネマコンプレックス「TOHOシネマズ」、J. フロントリテイリンググループによる商業施設「HAERA (ハエラ)」。多様な人々が訪れ、それぞれの目的で時間を過ごせる場所が、栄のど真ん中に誕生しました。オフィスは竣工前にして成約率約98%に達しており、経済的な注目度の高さもうかがえます。

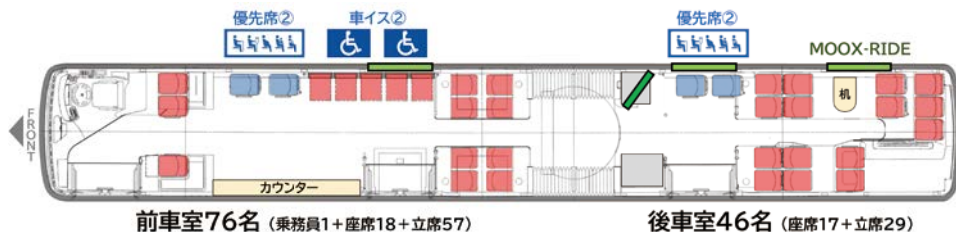
容積率は約2050%。名古屋で初めて2000%を超え、全国でも有数の水準です。都市再生特別地区制度を活用したこの開発には、ラグジュアリーホテルの誘致や地下鉄・地下街との接続による回遊性の向上が高く評価され、大幅な容積率緩和が認められました。防災面でも役割を担っています。災害時には一時退避場所・物資供給拠点となる「都市再生安全確保施



▲広小路通を走るSRT (提供:名古屋市)



▲SRTの停留所 (提供:名古屋市)



▲SRT-001車両



▲SRTのキービジュアル (提供:名古屋市)

設」として、防災備蓄倉庫が整備されており、地域の安心を支える存在でもあります。

このビルが立つ街区は、名古屋市内でも地価が特に高いエリアのひとつ。それでも長年にわたって低利用状態が続いていましたが、名古屋市が、隣接地権者である株式会社大丸松坂屋百貨店との共同事業を前提に、市有地を購入して両者の土地を一体的に活用する事業者を公募したことで、開発が実現しました。ザ・ランドマーク名古屋栄には、周辺街区の連鎖的な活性化を引き起こす起爆剤として、多くの人が期待を寄せています。

SRT 開業—広小路通を変える「まちづくりの装置」

2026年2月13日、「SRT (Smart Roadway Transit)」が名古屋で走り始めました。

名古屋駅と栄。2つの中心地を結ぶ連節バスが、洗練されたデザインで広小路通を行き来しています。単なる

移動手段にとどまりません。車内では走行位置と連動したデジタルコンテンツが沿道のまちの情報をリアルタイムで届け、「まちへの回遊を誘う仕掛け」としても注目を集めています。まちを知るきっかけが、乗り物の中にも広がっているのです。

テラス型のバス停留所は、待つ時間を心地よいものに変えました。人が自然と集い、会話が生まれ、まちの風景の一部として溶け込んでいます。

名古屋市はSRTの開業にあわせて、沿道の低未利用地や公開空地等の活用の支援（名古屋市都心部ナイスプレイス創出助成）も進めていきます。SRT の走行と、まち全体を豊かにする取り組み。その歩みが、いま着実に始まっています。

世界から選ばれる名古屋へ

2020年に生まれ変わった久屋大通、SRT の運行、ザ・ランドマーク名古屋栄の誕生。それぞれの動きが重なり合いながら、栄は新しい価値を着実に

積み上げています。

「栄地区グランドビジョン」が描いてきた「魅力あるまちの再生」は、着実にその姿を現しつつあります。

2026年秋には愛知・名古屋でアジア・アジアパラ競技大会が開催され、国内外から多くの人がこの都心を訪れます。さらにリニア中央新幹線の開業が実現すれば、三大都市圏が1時間で結ばれる巨大交流圏が誕生します。名古屋が世界から選ばれる都市へと成長する——その大きな節目は、着実に近づいています。

ひとつひとつの変化が積み重なる名古屋の最前線を、名古屋都市センターはこれからも皆さまと一緒に見守り、発信し続けていきます。



▲ザ・ランドマーク名古屋栄とSRT (提供:名古屋市)

SRTが変える景観 ～広小路・大津通に新たなルールが生まれる～



名古屋市では、2026年9月1日から、「広小路・大津通都市景観形成地区」の景観に関する新たなルールの運用を開始します。

柱は2つ。ひとつは景観形成基準の一部変更です。低層部(1・2階部分)ににぎわいある用途を誘導し、沿道の居心地をよくするための工夫や、緑の連続した街並みをつくる緑化、夜間の魅力ある景観づくりなどが新たに求められます。SRTから見た景観を意識した基準になっているのも特徴です。

もうひとつは、推奨項目と認定制度の創設です。まちに開かれた滞在空間「Nagoまちテラス」の整備やSRTと調和した景観づくりなど、事業者の積極的な取り組みを促すための「推奨項目」が新設されます。これらに取り組んだ建築物等は、「Nagoyaまちなか景観認定制度」(通称:Nagoまち景観)として認定され、市の広報媒体

での紹介や認定ロゴ銘板の配布など、さまざまな形で取り組みが広く発信されます。町並みをよくしようとする努力が、きちんと見える化される仕組みです。

SRTが走り、沿道のルールが変わる。広小路通は、いま、新しい風景へと生まれ変わろうとしています。



令和7年度研究成果報告会を開催しました！

名古屋都市センターでは、名古屋のまちづくりや都市計画行政の課題を先取りし、その解決の糸口を提示するため、学識者や行政機関等とともに、幅広い観点からの調査研究を実施し、その内容は、毎年の成果報告会や当センターWEBサイト等で公表しています。

令和7年度には、以下6件の調査研究を行いました。

令和7年度研究成果報告会の様子▶



研究1 名古屋圏における子育て世帯の居住地選択要因に関する研究

名古屋市及び周辺11市を対象として、子育て世帯が転居時に何を重視して居住地を選ぶのかをWebアンケート調査を通じて明らかにし、居住地選択に影響する要素を分析しました。



▲転居先の都市(市区)を選ぶ際に考慮した内容

研究2 転職に伴う名古屋圏から東京圏への転出実態に関する研究

転職に着目し、名古屋圏から東京圏への人材流出の実態とその要因についてアンケートを通じて定量・定性的に把握し、名古屋圏の人材定着に向けた政策的示唆を行いました。

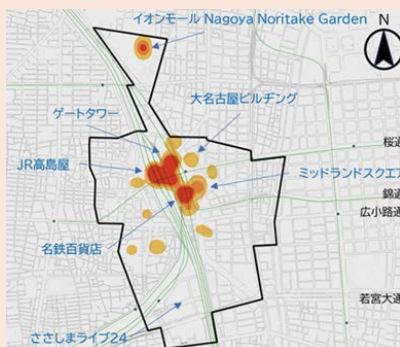
1. やりたい業務・プロジェクトに携われる環境を求めた	19.7%
2. 自分の能力・スキルをより活かせる仕事を求めた	18.9%
3. 裁量を持って仕事を進められる環境を求めた	7.9%
4. 挑戦的な仕事に取り組める機会を求めた	11.0%
5. 成長の機会(学習・研修・新しい業務)が多い環境を求めた	13.4%
6. 成果や貢献により適切に評価される環境を求めた	10.2%
7. 納得できる昇給・昇進の機会を求めた	13.4%
8. 処遇(年収・賞与)を改善したいと思った	18.9%
9. 労働時間や残業の負担を見直したいと思った	13.4%
10. 柔軟な働き方(在宅・フレックス等)が可能な環境を求めた	8.7%
11. 休日・休暇を取りやすい環境を求めた	11.8%
12. 自分に合うマネジメントのもとで働きたいと思った	4.7%
13. 自分に合う職場の雰囲気・人間関係を求めた	15.7%
14. 意思決定が速く、業務が効率的に進む環境を求めた	2.4%
15. 将来性のある企業で働きたいと思った	13.4%
16. 将来性のある業界で働きたいと思った	7.9%
17. 納得できる勤務地・通勤条件を求めた	9.4%
18. グローバルな仕事に携わりたいと思った	3.1%
19. 家族の事情(親の介護など)に対応できる働き方が必要だった	7.9%
20. 配偶者の転職や転勤などにより、自身も転職する必要が生じた	14.2%

転職理由
(名古屋圏
→東京圏)▶

研究3 パーソントリップ調査を活用した生活行動の特性の把握に関する研究

第6回中京都市圏パーソントリップ調査から新たに追加された調査項目を活用して生活行動の特性を把握する新たな方法を提案し、その有効性についてケーススタディを通じて検証するとともに、今後のまちづくり施策に資する基礎的な知見を得ました。

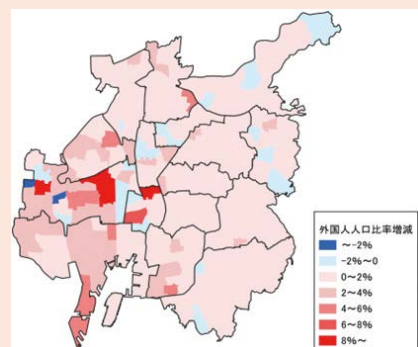
名駅エリアにおける
8:00~11:59の
自由目的集中トリップ▶



研究4 名古屋における外国人の居住状況に関する研究

名古屋市内に居住する外国人住民全体を対象に、国籍別の居住状況を学区単位で把握し、統計データやヒアリング調査などを通じて、その実態と特徴を整理・分析するとともに、今後の共生社会のまちづくりに向けた示唆をまとめました。

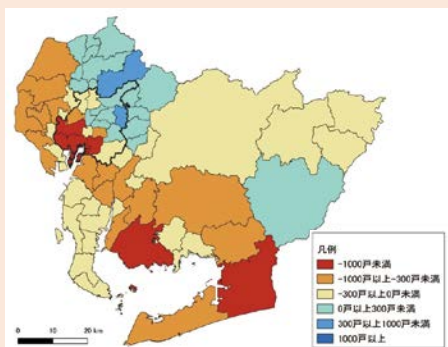
名古屋市の学区別
外国人人口増減率▶



研究5 南海トラフ地震を想定した応急段階の住まい確保に関する研究

南海トラフ地震発生時の愛知県内を対象として、応急段階の仮住まいの需給について分析するとともに、応急段階の住まい確保にあたっての主な課題と対応の方向性について整理しました。

南海トラフ地震
発生時の
3.4人世帯の
仮住まい需給評価▶



研究6 名古屋の道路の「これから」を考えるための現状分析

名古屋市の道路の現状到達点を分析し、今後の道路行政の指針となる将来像を描くための基礎資料を整理するとともに、今後の道路に求められるニーズの考察をしました。

広域幹線との
道路ネットワーク▶



名古屋都市センターのWEBサイトでは、上記研究の研究報告書とYouTube動画を公開しております。ぜひご覧ください。





＼ 令和7年度 スタートアップ助成&成長支援・実践活動助成団体 ／ 活動成果報告会を開催しました！

名古屋都市センターでは「地域まちづくり支援制度」でまちづくり活動を支援しており、そのメニューとして、まちづくり団体の活動に必要な費用の一部を助成する2種類の制度「スタートアップ助成」と「成長支援・実践活動助成」を設けています。それぞれ年度毎に、選考委員・評価員による選考会を経て助成団体を決定しています。

毎年3月から4月頃、助成を受けて活動した団体の1年間の活動成果報告会を開催しています。令和7年度は令和6年度に引き続き、「スタートアップ助成」と「成長支援・実践活動助成」合同で活動成果報告会を開催しました。異なる助成制度を活用した団体同士を交え、選考委員・評価員との意見交換も行われる貴重な機会となりました。



第1部

スタートアップ助成

スタートアップ助成団体の発表では、地域資源や特技、場の活用など、多様なアイデアにあふれ「真似してみたい」と思えるヒントが数多く共有される時間となりました。スモールスタートから「まずやってみる」という姿勢、そこから活動が広がり少しずつ人を巻き込んでいくプロセスについて、選考委員からも評価の言葉がありました。好きなことや得意なことをきっかけに始めた活動が「地域とどう結びついていくのか」を模索しながら展開されている様子が印象的でした。また、参加された皆さんの感想から発表への共感や新たな気づきを感じられました。

スタートアップ助成団体の皆さんと



たくさんの感想をいただきました！



スタートアップ助成3回目 想いのこもった発表でした

第2部

成長支援・実践活動助成

成長支援・実践活動助成団体の発表では、評価員から団体への質問も多く、活動の背景や今後の展望について意見が交わされました。実現可能性や継続性を高めるために、関わる人たちが前向きに参加できる環境をつくり「いいね!やろう!」と自然に動き出せる空気をどう生み出すかといった点が、今後の重要なテーマとして共有されました。評価員から「自分の言葉で語る姿が素晴らしい」「これからの展開を見守っていきたい」といった声が寄せられ、今後の活動への期待が感じられました。

また「活動を育てていくこと・ともに創っていくこと(共創)」の重要性や、SDGs・持続可能なまちづくりにおいて、活動が“消費される”のではなく自分たちの地域にどのように落とし込んでいくかという視点についても言及がありました。

成長支援・実践活動助成団体の皆さんと

意見交換が活発に行われました！



● 支援班の広報 ご紹介 ●

令和7年度の助成団体の活動の様子をまとめた【活動助成Report Book2025】を発行しました。名古屋都市センター11階喫茶コーナーに配架しております。また、WEBサイトでもご覧いただけます。他にも、SNS等まちづくり活動情報発信を行っておりますのでぜひご覧ください。



冊子の詳細は
コチラから！



11階喫茶コーナーで、助成団体の活動の様子を広報しています



まちづくり活動
情報発信中！
詳細は
コチラから！





八事・山本球場

中日ドラゴンズで知られる名古屋は、野球熱が高い地域です。現在のドラゴンズの本拠地球場は、1997(平成9)年に完工したバンテリンドームナゴヤ(旧:ナゴヤドーム)ですが、名古屋初の本格的な野球場は1922(大正11)年に建てられた山本球場です。現在の名古屋市昭和区滝川町にありました。

球場の名は、設立者の山本権十郎に由来します。山本氏が私財を投じて設立した球場では、多くの名試合が行われました。1936(昭和11)年7月15日、伝統の一戦と



呼ばれる現在の読売ジャイアンツと阪神タイガースの初対戦の舞台となりました。

もうひとつの重要な試合は、選抜高等学校野球大会の第一回大会です。山本球場は狭さゆえに、第二回から舞台は甲子園へ移りました。この幻の大会での十二本のホームラン記録は、長らく非公式とされましたが、のちに選抜発祥の地を記念して公認されました。

名古屋の野球文化を支えた山本球場は、戦後、「八事球場」と名を変えて存続しましたが、1990(平成2)年に閉鎖されました。その後、解体され、現在はマンション群となっています。マンションの敷地内に「八事球場メモリアルパーク」が整備され、本塁があった位置には「センバツ発祥の地」のモニュメントが設置されています。静かな住宅街に現れたモニュメントは、在りし日の熱戦を偲ばせるようにたたずんでいます。

さらに詳しく知りたい方は、こちら 

◆参考文献◆

『昭和区の歴史』(Sc-A)

『尾張名古屋大百科』(Se-ナ)

『歴史ウォッチング4』(Sc-ナ)

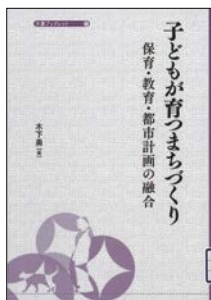
※()内はまちづくりライブラリーの請求記号です。

図書紹介

『子どもが育つまちづくり 保育・教育・都市計画の融合』

著者:木下勇
出版社:日本経済評論社
請求記号:Ca-キ

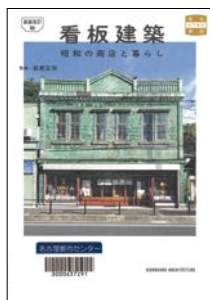
子どもにかかわる政策はさまざまな分野にまたがる問題であるため、保育・教育・建築・環境といった分野をこえた取り組みが求められます。建築・都市計画の専門家である著者が子どもの視点から「子どもたちが自ら育つまち」を考えます。



『看板建築 昭和の商店と暮らし 新装改訂版』

編者:浅見英治、山田容子
出版社:トウ・ヴァージンズ
請求記号:Id-A

看板建築とは、建物自体は和風ですが、正面部分を一枚の看板のように装飾した個人商店の建築のことです。関東大震災復興時に多く建てられました。かつては一般的にみられましたが今は数が少なくなった看板建築をカラー写真で紹介しします。



『欧州都市政策の軌跡と新潮流 16都市に見る都市アイデンティティのつくり方』

著者:服部圭郎
出版社:花伝社
請求記号:Cb-ハ

本書ではヨーロッパの16の都市を紹介しています。各都市のユニークな政策はそれぞれの歴史やなりたちと密接に関係しています。歴史や背景をおさえて現地取材や統計によって各都市の都市政策の意義を整理し、21世紀のあり方を探ります。



令和8年度の地域まちづくり支援活動助成 助成団体が決定しました

名古屋都市センターでは「地域まちづくり支援制度」でまちづくり活動を支援しており、まちづくり団体の活動に必要な費用の助成を行っています。

今年度も、熱意と工夫にあふれる多くのご応募をいただきありがとうございました。

その中から、今年度の活動助成団体は、**スタートアップ助成13団体**、**成長支援・実践活動助成9団体**に決定しましたので、ご紹介いたします！

■ スタートアップ助成 団体名《活動地区》

助成1回目

- 大失敗～Just The Way You Are～《天白区》
- ヒラサンハウス《緑区》
- 熱田水辺とまチルラボ《熱田区》
- 名駅三丁目エリアマネジメント《中村区》
- まちのあそびば《中川区》
- このまちがすき《中川区》

助成2回目

- ささしま暮らしのお寺市実行委員会《中村区》
- 烏が池 むすびばプロジェクト《東区》
- 上社ウェルまちビーイング《名東区》
- 結-MUSUBI-《守山区》
- 大野木みんなまちプロジェクト《西区》
- ちいきのいまaimaima《名東区》

助成3回目

- 名東プレーパークの会《名東区》

■ 成長支援・実践活動助成 団体名《活動地区》

PR助成

- Too Much株式会社《中村区》
- マチゾラシンサカエマチ《東区・中区》

トライアル活動助成

- 名駅四丁目まちづくり協議会《中村区》

組織基盤強化助成

- 東桜エリアマネジメント協議会《東区・中区》

構想づくり活動助成

- 大曾根まちそでて会議《東区・北区》
- 鶴舞・千種エリアマネジメント協議会《千種区・中区・昭和区》

事業化検討助成

- 植田東学区連絡協議会《天白区》
- 名駅南地区まちづくり協議会《中村区》

実践活動助成

- 熱田湊まちづくり協議会《熱田区》



詳細はWEBサイトからご覧ください。

令和8年度まちづくりスキルアップ講座 「仲間が集まる活動には"わけがある"」 受講者募集！

地域活動やまちづくり活動に取り組む団体が感じやすい、よくある「困りごと」
仲間が増えない、周囲との関係がうまくいかない…。
そんな悩みに「対話と実践」で向き合う、2日間の学びの場。
事例から学び、仲間とつながり、明日への一歩を持ち帰ろう。

日時

第1回 8月8日(土)
9時30分～12時30分

第2回 9月12日(土)
9時30分～12時30分

場所 名古屋都市センター
11階ホール

詳細及び申込

WEBサイトより
ご確認ください。



講師: TAKEZO 加藤 武志さん まち楽房有限公司 代表取締役

「名古屋市シティプロモーション企画 『やさしい大都市展』を開催中！」

名古屋都市センターでは、シティプロモーションサイト「やさなご」で発信している内容を中心に、まちづくりの視点から名古屋の魅力や価値を紹介する企画展を開催しています。パネル展示や動画を通して、名古屋の多彩な魅力をご覧ください。

ぜひこの機会にお立ち寄りください。



日時

令和8年7月14日(火)～
8月23日(日)
午前10:00～午後6:00
(土曜日・日曜日・祝休日は
午後5:00まで、月曜休館)

場所

名古屋都市センター11階
まちづくり広場

主催

名古屋市総務局企画課、
名古屋都市センター

名古屋市内の文化財等をご紹介します。

歴史まちを巡る



歴まちくんとおとも



文化のみち 榑木館(旧井元為三郎邸) - 和と洋が溶け合う、大正ロマンの邸宅へ - 【名古屋市指定文化財／景観重要建造物】名古屋市中区榑木町2丁目18番地



名古屋城の東側、白壁・主税・榑木町並み保存地区にたたずむ「文化のみち榑木館」。ここは、名古屋の陶磁器輸出業を支えた実業家・井元為三郎が、大正末期から昭和初期にかけて築いた邸宅です。和館、洋館、茶室、土蔵などからなる建物群は、現在、名古屋市指定文化財として公開されています。

榑木館の見どころは、なんととっても和と洋が美しく調和した建築です。正面に立つと、まず目を引くのが洋館の赤いスペイン瓦。1927年に建てられたスパニッシュ様式の洋館で、当時としては最先端のモダン住宅でした。内部には応接間や食堂、サンルーム、娯楽室などが設けられ、海外文化を積極的に取り入れた暮らしぶりを感じることができます。欄間には色鮮やかなステンドグラスも残り、やわらかな光が館内を彩ります。

一方、和館は落ち着いた書院造。広々とした座敷や三方を囲む縁側からは、美しい庭園をゆったりと眺めることができます。特に客座敷は格式高く、静かな空間に大正期の上質な住まいの美意識が漂います。庭に点在する茶室や土蔵も風情たっぷり、和洋折衷の邸宅ならではの魅力を味わえます。

館内を歩いていると、華やかな輸出産業で栄えた当時の名古屋の空気が感じられるはず。周辺には歴史的建築や古い町並みも残り、散策スポットとしても人気です。レトロ建築好きはもちろん、名古屋の近代史に触れたい人にもおすすめします。

榑木館公式サイト
<https://shumokukan.jp/>



《参考文献》
「愛知県の近代化遺産」愛知県教育委員会編
池田誠一「【4】榑木館(井元為三郎邸)・・・名古屋・近代の生き証人」
<https://www.chubudenkikyokai.com/archive/project/>

公益財団法人 名古屋まちづくり公社



名古屋都市センター
Nagoya Urban Institute

〒460-0023

名古屋市中区金山町一丁目1番1号 金山南ビル

TEL 052-678-2208

FAX 052-678-2209

<https://www.nup.or.jp/nui/>

ISSN:1341-6820



この印刷物は再生紙を使用しています。

利用案内●どなたでもご利用いただけます。

【11階】まちづくり広場
(展示スペース・ホール・喫茶コーナー)
【12階】まちづくりライブラリー
火～金曜日: 10:00～18:00
土・日曜日・祝休日: 10:00～17:00
※休館日: 月曜日(祝休日の場合はその翌日)、
年末年始
まちづくりライブラリーは、
上記のほか第4木曜日、特別整理期間も休館



SNS
やってます!

